認定／特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN　Newsletter　2020.3.31 発行

IV-NEWS

Vol. 38

外務省・日本 NGO 連携無償資金協力事業

チャンパー山の民奨学金訓練生たちの ホスピタリティ･介護訓練事業がスタート

3 月 10 日、ラオス首都ビエンチャンから北へ 20 キロ離れたナーサイトン郡にて、6 都県から 17 名の訓練生（17 歳から 26 歳まで）が集まり、ホスピタリティ･介護職業訓練がスタートしました。

本事業は IV-JAPAN にとって初めての分野であり、私たちも担当する 2 人の先生方も初めは緊張気味でした。一方で訓練生たちは、寮で共同生活を始めた数日後にはすでに打ち解けあっていたので大変良い雰囲気で訓練を行っています。ちなみに上の写真は女性寮です。

生徒たちは、家庭の事情や少数民族であるためなど、さまざまな事情で教育を受ける機会がなかったり、中学、高校を退学せざるを得ませんでした。しかし、日本の皆さまからの山の民奨学金のおかげで学ぶことができ訓練生たちはとても感謝しています。寄付していただいた皆さまに訓練生たちがお礼の手紙を書きました。その時の手紙には書いていないエピソードをいくつかご紹介します。

親が失業したため高校を退学した訓練生 A は、「とにかく勉強したい！」とのこと。この事業で何を勉強するかはここに来るまでは知らなかったそうです。訓練生 H は以前、観光の仕事をしていたので、この訓練に参加したそうです。働きながら学ぶことができなかったので今回のような奨学金はとてもうれしいとのこと。訓練生 D は、妹弟を養っていましたが、妹が就職したことを機に訓練に参加しました。「自分にとっては最後の学ぶ機会」と話したのが印象的です。このように訓練生は様々な事情を抱えています。そんな中で今回の学びを得る機会ができたことはドナーの皆さまのおかげです。私たちスタッフは、彼らを支えるために頑張りますのでこれからもご支援をお願いいたします。

ホスピタリティ･介護訓練事業について

ラオスで増加している高齢の旅行者、移住者などに対応するため、ホテルなどで働くための技術を学ぶホスピタリティ訓練講座が 2020 年 3 月 10 日に始まりました。また、3 か月後の 6 月からは介護訓練講座（3 か月）がはじまります。2022 年 2 月までに 4 期（6 か月/期）、総数 80 名（1 期定員 20 名）が学ぶことになります。卒業後は、ホテル、ケア施設、サービスアパートメントなどに勤めます。

グループワークの様子。リーダーシップをとる者、裏方に徹する者、アイデアが豊富な者、イラストが上手な者、訓練生にはそれぞれの素質があります。

寮では､みんなで食事をします｡調理､皿洗い､掃除など当番を決めて共同でおこないます。

― お坊さまのインターンシップ ―

ホスピタリティ事業ではラオス国立大学からインターンシップ生を 2 か月間受け入れました。彼らは大学生でありながら、お坊さまでもあるのです！！ラオスでは学校に通うお坊さまをよく見かけます。2 人には、時に授業をしてもらうこともあります。熱心な仏教徒であるラオス人にとって、お坊さまは身近な相談役。訓練生たちの表情も和らぎます。そして、お坊さまがいると気が引きしまります。

訓練生に英語の授業をするコンニー師。日本語も勉強中

生徒へお祈りをし、聖紐をさずけるトンダム師

スタディーツアーで訪れる日本人にプレゼンテーション

3 月 10 日からようやくスタートしたホスピタリティ・介護職業訓練ですが、**新型コロナウイルス**の影響で、ナーサイトン郡教育課から中止を言われ、訓練生は 3 月 20 日で故郷へ帰っていきました。

ラオスでも全学校が閉鎖になり、現在はロックダウンが発令されて国境も閉鎖、発着便もありません。残念ながらいつ再開できるか見通しが立っておりません。

お二人のお坊さまに聞いてみました！

- なぜ IV-JAPAN でインターンを？

卒論で、NGO について書こうと思いました。その中で日本の NGO に興味がありました。なかでも IV-JAPAN はラオスでは長く活動していると聞いたからです。

- 日々の日課は？

ナーサイトン訓練センター近くのお寺に寄宿しています｡朝、5 時ごろから勤行が始まり、その後托鉢に出かけます。朝食後に歩いてセンターに行きます。会議の司会、翻訳、SNS への広報など、様々な仕事をします。夕方、お寺に帰り、勤行を行い、9 時に就寝します。-卒業後は？

還俗するかどうかは分かりませんが、NGO で勤めてみたいと思っています。特に貧しい人に職業訓練をする IV-JAPAN には興味があります。

JICA 木工　ラオス職業教育校のトレーナーの技能向上プロジェクト

主任トレーナー研修モニタリング報告！！

木工プロジェクトでは昨年、地方の職業教育校と職業教育開発機関の木工の先生に 10 週間にわたりトレーニングを実施しました（主任トレーナー研修）。この研修に参加した先生方が、自分たちの学校でどのように研修の成果を活かしているかを見るためにモニタリングに行ってきました。どの先生からも、より良い家具を作る技術を学生に伝えようとする姿を見ることができました。

アッタプー県職業教育校

ジョム先生は、黒板に上手に日本式の精巧なほぞ穴の空け方の図を書いて分かりやすく説明した後に、実際にほぞ穴の空け方を学生に見本を見せながら上手に指導していました。

セコン県職業教育校

コンカム先生は、主任トレーナー研修で作ったカフェテーブルの原寸大の図面をベニヤ板で作り、学生に部材の大きさや形をしっかりと理解させながら、必要な部材作りを進めていました。。

サイニャブリ県職業教育校

サイロム先生は、学生に製作指導する作品を一度自分で作ってから家具製作指導していました。そのため間違えやすい点を的確に学生に伝えながら指導することができていました。

ルアンパバーン県職業教育校

ウタイワン先生は、スケッチを何度も行い、何度も自分自身の作品を練り直すことで、より洗練されたデザインの作品を作ることができるということを学生たちに伝えていました。

ウドムサイ県職業教育校

ウタイ先生は、主任トレーナー研修で作ったカフェテーブルの図面を CAD で作り、部材の長さや角度を丁寧に教えていました。2 年生は既に製作済みで、今回は 1 年生も製作することにしたそうです。

ポンサリ県職業教育校

シンサイ先生は、実際の木材からどのように部材を切り出していくかを、1 つ 1 つの部材ごとに学生に描き出させていました。製材前の事前準備の大切さを学生にしっかり伝えていました。

ルアンナムター県職業教育校

ソムサワット先生は、精密な家具作りをするために、木材を裁断する前に木工機械を正確にセッティングすることが必要なことを自ら実演して見せながら教えていました。

職業教育開発機関（VEDI）

ソムチット先生は、日本の木工技術を使った靴棚作りを学生に指導しています。必要な木材を学生と一緒に計算するところからスタートしています。

カムアン県、サワンナケート県、サラワン県職業教育校へのモニタリングは、ラオス政府のコロナ対策を受けて、延期となりました。3 県の先生とも、それぞれ彫刻、CAD、建築の知識とそれぞれの得意分野を活かして、日本の家具作りの技術を学生に教えています。休校明けにモニタリングに行くのが今からとても楽しみです！！

彩の国さいたま国際協力基金　2019 年度助成金
ネパール職業訓練事業　完了報告

2019 年 10 月 1 日から 2019 年 12 月 27 日にかけて、ネパール・ゴルカ郡・パティスワラ村にて、2019 年度彩の国さいたま国際協力基金助成金を活用し、「パティスワラ村における作業環境の改善とトレーナー派遣による職業訓練の実施事業」を実施しました。本助成金を活用しての同郡への支援は、今年度で 3 年目となりました。

今年度は、日本から手工芸製作の専門家を派遣、同村の女性グループを対象に、「作業環境の改善」と「職業訓練の実施」という 2 つの支援を実施しました。事業の詳しい実施内容と成果は次の通りです。

搬入された作業机

1. 作業環境の改善

資機材の面で、縫製・裁断の作業に必要な作業環境が十分に整備されていなかったこともあり、村の女性たちは正確な作業を行うことが困難でした。例えば裁断の作業の際、布地を広げられるような裁断台が必要になりますが、そういった資材が確保されていませんでした。やむを得ず女性たちは地べたで裁断を行っていましたが、必ずしも平らな地面ではないため、正確に布を裁つことが容易ではなかったのです。

この状況を改善するため、裁断机、作業机、イス等の縫製・裁断の作業に必要な資機材を導入しました。これらの資機材が導入されたことにより、縫製・裁断の作業環境が大幅に改善され、村の女性たちの作業は効率的かつ正確なものとなり、制作物の質を向上させることができました。

2. 職業訓練の実施

近隣の村から縫製・裁断のトレーナーを招聘し、村の女性グループ 20 名を対象に、3 ヶ月間の縫製・裁断の職業訓練を実施しました。対象グループは、前年度の手工芸職業訓練にて縫製・裁断の基礎を学習済みであったため、今回はより実践的かつ応用的な訓練を実施しました。

ミシンを使った裁縫のトレーニング

前回の訓練終了時、村の女性たちは小さなバッグや食器洗いニット、鍋敷きやコースターといった簡単な日用品しか作ることができませんでしたが、今回の訓練の結果、訓練に参加した女性全員がニットセーター、サリーのブラウス、クルタ（襟無しのワンピース）、シャツ、ズボン、スカート、肌着、子ども服などの衣服を製作することができるようになりました。また、日用品づくりの技術も向上したことで、村内のローカルマーケットで販売できるような衣服・日用品の製作が可能になり、女性たちの経済的自立促進の一助となりました。

クルタ（襟無しのワンピース）

子ども服

藁の座布団

☆伝統工芸品作成技術の復活

さらに今回の訓練では、衣服や日用品などの一般的な技術の教授に加え、藁やトウモロコシ皮のマット（座布団）など、伝統的なハンディクラフト製品作成の技術の指導も行いました。その結果、村の女性グループは失われつつあった伝統工芸品作成の技術を習得することができました。

これらの製品はすでに村外のローカルマーケットで販売が始まっています。村の中だけでなく、村の外からの収入源も獲得することができたことは大きな成果でした。

ラオス料理レシピ紹介　-ゲーン・ノーマイ（たけのこスープ）-

2020 年 3 月 22 日に開催予定だったラオス料理教室は、新型ウイルスの影響から延期となりました。参加を希望されていた皆様にはご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございませんでした。今後の情勢に注意しつつ 2020 年度にまた開催できればと考えております。

今回はこの場をお借りして、ラオス料理教室で調理予定だった「ゲーン・ノーマイ」のレシピを紹介します。「ゲーン」は日本語で「スープ」を、「ノーマイ」は「たけのこ」を意味するラオス語です。ゲーン・ノーマイは、多くのラオス人に愛されている、ラオスの家庭料理です。

日本のラオスレストランでも食材の入手が困難なため調理をするのが難しく、メニューに載せていないレストランが多い中、日本にある材料で工夫したものです。

【用意するもの】

・たけのこ	・オクラ	・小口ネギ	・塩	・唐辛子	※レモングラス
・ぶなしめじ	・ほうれん草	・たまねぎ	・ニンニク	・コーンスターチ	※バジル
・きくらげ	・ズッキーニ		・ナンプラー		※はあれば尚良い

① 各野菜を食べやすい大きさに切る。

たけのこはスライスして、湯通しする

たまねぎは一口大にくし切り

オクラ、ズッキーニは乱切りに

② ほうれん草は葉っぱと茎に分ける。葉っぱは色付けに使い、茎は３cm大に切ってスープに入れてもよい。葉っぱは水でもみ、色味を出す。その後、コーンスターチを適量入れる。色を出した後の葉っぱは捨てる。

(1) 葉っぱと茎に分けて、

(2) 水につけてもみながら、

(3) 色味を抽出する

(4) 最後にコーンスターチを適量入れる

③ 大鍋に水を張り、塩を適量入れる。

④ 沸騰したら、火の通りにくい野菜（たけのこ、ズッキーニなど）から鍋に入れる。

⑤ 野菜に火が通ったら、②で作ったほうれん草の汁を入れ、かき混ぜながらとろみをつける。

⑥ とろみが出てきたら、レモングラスと小口ネギを入れる。

⑦ 味付けは主にナンプラーで。適量のナンプラーと、お好みでバジル、スライスしたニンニクを入れ、味を調えて完成。

幸子のラオス便り　No. 43

⚽ ラオスのサッカー事情 ⚽

ラオスで一番人気のスポーツはサッカーです。しかし、残念なことにFIFA（フィファ）国際サッカー連盟の最新ランキングによると加盟国210ヵ国のうちラオスは188位、ASEAN（アセアン）10ヶ国の中でもラオスは最下位か2番目に位置しています。

平均的なラオスの校庭

子供たちは嬉々としてボールを蹴っていますが、サッカー場は草ぼうぼうで石ころだらけです。ケガをしないか心配ですが、学校の運動場も同じような感じで、普段は牛やヤギが来て草を食べています。そんな環境の中、ラオスの要請に呼応して、2011年にJICAがウドムサイ県に協力隊サッカー指導隊員を派遣したのが日本の協力の始まりでした。以後現在までに6名のボランティアが各県やラオスサッカー連盟に派遣されています。

私は偶然2011年9月にラオスで初めて開催されたアジアン・フットボール・コンフェデレーション(AFC)16歳以下の予選大会を見に行きました。AFCはアジアの46ヵ国で形成されていて、勝ち抜いたチームがアジア代表になり、世界大会へ出場することができます。なんと試合は日本とベトナム戦でした。会場の新国立競技場は25、000席あるのですが、ベトナム系ラオス人がたくさん応援に来ていました。日本人は10人くらいしかいません。日本が5対1で勝ちましたが、ラオス人の応援は太鼓や笛を使ってとても賑やかでした。

後日、日本人選手の宿泊先へ、太巻きずし、きんぴら、おはぎを持って、少年たちの健闘を称えましたが、もう3ヵ月も連戦で日本に帰っていないとのことで、整列してお礼をキャプテンが述べられてとても礼儀正しい少年たちでした。2019年にもU16の予選がラオスで開催され、ラオスと日本が対戦して0対4で日本が勝っています。

― 大宮アルディージャがラオスでサッカー教室 ―

2014年からJ2の大宮アルディージャがラオスでサッカー教室を開き、ラオスに来て少年少女たちの指導を65回もしています。なぜこんなに長続きしているのか秋元利幸グローバルマネージャーにお聞きしましたら、環境が悪いのにもかかわらず子どもたちの笑顔が最高で、とても楽しんでいるのが素晴らしい、サッカーで夢を持たせたいと。

当会のラオス事務所にU16のラオス代表として大宮アルディージャの指導を1週間受けに日本に行った職員がいます。もう15年も前の2005年のことですが出発前の6か月間、28人の少年がラオスサッカー連盟で寝泊まりし、学校にも行かずに毎日特訓を受けたそうです。しかし、帰国してもサッカーでは食べていかれないのでサッカーはあきらめたそうです。

実はラオスにはプロのサッカークラブが存在しません。2013年に「ラオ・プレミア・リーグ」と呼ばれるラオス国内トップ・リーグが誕生しましたが、加盟する6チームの内、社会人チームが4、それに軍隊と警察の2チームです。ほとんどの選手がサッカー以外の仕事をしながら生活しているというのが現状です。各地には「アカデミー」と呼ばれる組織がありますがラオスには登録制度が整ってないため各県にいくつのチームがあるのか、それぞれ何人の選手が所属しているのか、ひいてはラオス国内のサッカー人口についても正確に把握できていないのが現状です。

こうした制度的な整備の遅れのほかに、もう一つラオスサッカー界あるいはラオススポーツ全体が直面している大きな問題があります。子どもたちはサッカーが大好きでも学齢期になると進級試験が小学校1年生から毎年あり、及第点が取れないと落第します。就職すると仕事や家族が優先で、年間を通しての練習の継続が難しくなるようです。スポーツは趣味の域を出ないので、サッカーのみで生活できるプロ選手がいないのが現状です。

才能の発掘や選抜された選手の育成も、国体や地域大会前にしか監督やコーチが確保できず、継続した練習、身体作りや正しい練習の指導を受ける機会が少なく、試合のモチベーション向上も限られるとのことです。ちなみにラオスではS級コーチはいなく、ABCDの各級コーチを合わせても全国で1000人くらいだそうです。

サッカーで必須の年齢を特定する査証も難しい事情があります。

今、ラオスフットボール連盟が目指しているのは、2050年までにワールドカップ出場を可能にすることと、サッカー人口を120万人まで増やすことです。そのために、日本の協力を得て、各地域で

指導者養成を行い、サッカーで経済的自立ができるようにプロ選手を育てることだそうです。

現在ラオス連盟には日本サッカー連盟から S 級コーチの小野明さんと JICA 協力隊員の鈴木慎吾さんがラオスサッカー連盟に派遣されています。お二人の目標は、今後 2 年間で各地域の 24 人のインストラクター、つまりコーチを教えるコーチを養成することが急務とおっしゃっています。そして、まず 2030 年までの目標として、サッカー人口を 65 万人まで増やし、アセアンのトップ 10 入りを目指すことだそうです。日本の支援でラオスのサッカー人口のすそ野が広がることを願っています。

ナーサイトン訓練所内でサッカーチームが誕生しました。ゴールポストは介護専門家のノイ先生（タイ人）の寄付です。

冨永が寄贈した 30 着のユニホーム。左端の IV 職員ルン君が毎週土曜日ボランティアでコーチをしています。

『おかげさまで復帰しました』

昨年 5 月 15 日にラオス南部水害被災地の 1 年後の支援にアタプー県を訪問した帰り道、パクソンで運転手の前方不注意で、前方に大穴があるのに気付くのが遅れ、それをよけるためジグザクを繰り返し、車は横転しました。私は意識不明に陥りましたが、近所の村人が出てきて、車中の 4 人を車から引っ張り出してくれたそうです。すぐ救急車で診療所へ向かい、国境を超えてタイのウボンラチャタニの病院で緊急手術を行いました。

私は左大腿骨骨折と首の頸椎（第　1、2、3、6、7）骨折・破損でした。5 月 26 日にドクター飛行機でバンコクの大病院へ運ばれ、リハビリが始まりました。最終的には 6 月 11 日に日本へ転院し、合計 4 か月間の入院生活後、在宅リハビリとヘルパーさんの週 2 回派遣で生活ができています。皆様にはご心配頂きましたが、12 月末にラオスに戻り、今年 2 月 20 日には卒業生たちが快気祝いのバーシー（写真）を開いてくれました。元訓練生・職員はじめ、ビエンチャン都教育局の職員等 50 人以上が、私の復帰を喜んでくれました。

日本のお医者さんからも「頸椎がこれだけやられていたら、普通は麻痺してしまうのに奇跡的です。」と言われました。左脚が 2～3 cm 短くなりましたが杖歩行で歩いています。たくさんの子どもたちに囲まれ、本当に幸せな人生です。皆さま、ありがとうございました。

バーシーの聖花と幸せを祈って手首に皆さんから聖紐（白糸）まいていただきました。

千客万来

2/10 【 JICA 東京　埼玉関係事業視察団 6 名】

2/12 【高崎経済大学　野崎ゼミ スタディツアー 学生 8 名
引率者 1 名】（右写真）

2/3～3/27
【ラオス国立大学インターンシップ受入れ 2 名（ラオス人）】

―お知らせ―　＜冨永代表が出演しているNHKラジオ番組の放送日時＞
「マイあさ！」　「アジア　ナウ」のコーナーでラオスについて2か月に1度出演します。
日　時：2020年4月10日（金）　午前8時6分から10分程度
「ラジオ深夜便」　日時：6月20日（日）午前0時10分頃
※番組ホームページでは聴き逃し配信を行っています。

【寄付者一覧（2019年12月1日～2020年3月31日）※日付順・敬称略

【 チャンパー山の民奨学金　寄付者一覧 】
利根川恵子（60,000円）

【 カノック奨学金　寄付者一覧　1口12,000円】
西条喜子（1口）、片山純子（1口）、菅原由紀（2口）、ガールスカウト千葉県第45団（1口）
掃部関克子（1口）、込山まち子（1口）、根橋淑江（1口）、松茂良米子（2口）、宮内芳子（1口）
石坂幸子（1口）、奈良伊世（1口）、蛭間愛子（1口）、賀元澄子（1口）、伊東慶子（1口）
廣田知彦（1口）黒田歩・浩己（1口）、上原　望（1口）、大野宏江（3口）、嶋　美喜子（4口）
小林佳代子（1口）飯村勝利（1口）、飯村文子（1口）、春日　曠（1口）、又吉ミチ（1口）
ガールスカウト大阪府第61団（1口）、石井直子（1口）、渡久地澄子（5口）、大橋國江（2口）

【 国際協力費・運営費　寄付者一覧　※2,000円未満は省略させて頂きます。】
添野ふみ子（10,000円）、松島精一（30,000円）、加納則子（6,000円）、豊田利久（10,000円）
菅原由紀（6,000円）、込山まち子（8,000円）、原國倍子（3,000円）、林　千根（5,000円）
上田義朗（5,000円）、田中誠吾（3,000円）、宮内芳子（8,000円）、齋藤友美恵（3,000円）
野崎謙二（9,000円）、蛭間愛子（3,000円）、神原　恵（20,000円）、大野宏江（104,000円）
嶋　美喜子（2,000円）、小林佳代子（2,000円）、石井直子（3,000円）古谷朋子（5,000円）
栗林聡（50,000円）、飯村浩（3,000円）

【 ドナー募集 】
○カノック奨学金、国際協力費・運営費、チャンパー山の民奨学金、各ドナーを随時募集しています。
①カノック奨学金ドナー　　12,000円（1口）以上
②国際協力費・運営費ドナー　個人:3,000円以上／団体・法人:10,000円以上
③チャンパー山の民奨学金　　60,000円（1口）以上
○申込方法　※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。
郵便振替　：（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　普通預金　口座番号:5038052
名義人：（特非）国際協力NGO・IV－JAPAN

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力NGO・IV-JAPAN
当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋2-545-2-101
TEL/FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://iv-japan.wix.com/iv-japan

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX : +856-21-316047
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

タイ事務所
Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya (Rajavithi9),
Rangnam, RajavithiBangkok 10400 Thailand
E-mail: valaikorn@hotmail.com

（IV-JAPAN QRコード）　（アカウンタービリティセルフチェックマーク）